2026年11月2日

事業所防災リーダー通信 2026 Vol.15

事業所防災リーダーの皆さまへ、防災知識や防災に関するお知らせなどを定期的に発信します。

大雨・台風などの水害から事業所を守る対策

浸水を想定した事前の備えと早めの判断が、従業員と事業所を守ります。

台風や線状降水帯による大雨では、短時間で道路や建物が浸水し、
交通機関が止まることがあります。地震とは異なり、水害は台風情報や線状降水帯の
半日前予測など、発生前に情報を得られる場合があります。平時の備えと、
大雨が見込まれる時に「いつ・誰が・何を判断するのか」を決めておきましょう。



平時　事業所の「浸水リスク」を見える化

① 浸水リスクの確認	ハザードマップで洪水・内水氾濫・高潮・土砂災害のリスクを確認し(＊)、 想定浸水深と避難先・避難経路を把握します。事業所周辺に加え、従業員が利用する駅・道路、 **アンダーパスなどの危険箇所も確認。地下・低層階の電気設備、サーバー、重要書類、 備蓄品の位置を確認し、浸水被害を想定します。** (＊)参考:東京都建設局「洪水浸水想定区域図」 ＜リンク先＞https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/river/chusho_seibi/panhulink/menu
② 浸水対策の検討	建物内・地下への浸水に備え、**止水板・土のうを準備**します。 排水口・側溝は枯葉やごみを除去し、逆流のおそれがある屋内排水口は 水のうで塞ぐ方法も確認。**受変電設備・分電盤、サーバー、PCや重要書類は 上階や高い位置へ移すなど配置を見直し**、重要なデータはバックアップを確保しておきましょう。
③ 判断ルールを決める	気象・河川・交通情報を誰が確認するか、**出社抑制・テレワーク・早期帰宅・避難・車の利用を控える判断**を、どの段階で行うか決めます。電話・メール・チャット・安否確認システムなど、 従業員への連絡手段も複数用意します。

大雨が予想されたら「早めに動く」

- 大雨が予想される時は、気象情報・河川情報・交通情報を継続して確認し、
必要に応じて出社抑制や早期帰宅、車の利用を控える判断をし、従業員へ連絡します。
- 止水板等を設置し、車両・重要書類・重要物品・電気機器を浸水のおそれが少ない上階・高所などへ移動します。
- 浸水が始まってからの移動は危険です。避難が必要な場合は、浸水想定区域外の避難先などへ
早めに移動します。屋外への移動が危険な場合は、最終手段として事業所内の上階へ避難(垂直避難)します。



事業所防災リーダーの役割

「情報収集 → 判断 → 周知」を一人で抱えず、責任者・代行者を決めて行います。
判断時刻・情報源・対応内容を記録し、同業種の協会・組合や地域の事業所の対応も参考に、情報収集を行いましょう。



平時に確認！

- ☑ ハザードマップで事業所・周辺関係場所の浸水リスクを確認している
- ☑ 電気設備・重要書類の浸水対策と、データのバックアップをしている
- ☑ 止水板・土のう・水のう等の設置場所と使い方を確認している
- ☑ 出社・帰宅・避難の判断基準と複数の連絡方法を決めている

参考資料:：＊東京都「東京防災」148～161ページ(PDF版75～81ページ) / ＊東京都「東京事業所防災実践マニュアル」86～89ページ(PDF版44～45ページ)
＊国土交通省・経済産業省「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」 / ＊気象庁「新たな防災気象情報について」 / ＊国土交通省「川の防災情報」

東京都からのお知らせ

11月6日(金)締め切りです！　「事業所防災リーダー優良企業」応募受付中！

事業所防災リーダーの登録や企業でのリーダーの活躍を推進するため
事業所防災リーダーの活用に積極的に取り組んでいる企業等を認定・表彰します。

対象企業等:①大規模事業所部門(従業員100人超)、②中小規模事業所部門(従業員100人以下)
募 集 期 間:2026年10月5日(月曜日)～2026年11月6日(金曜日)

◆お申し込みの詳細: https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kitaku_portal/1000048/1030470/index.html